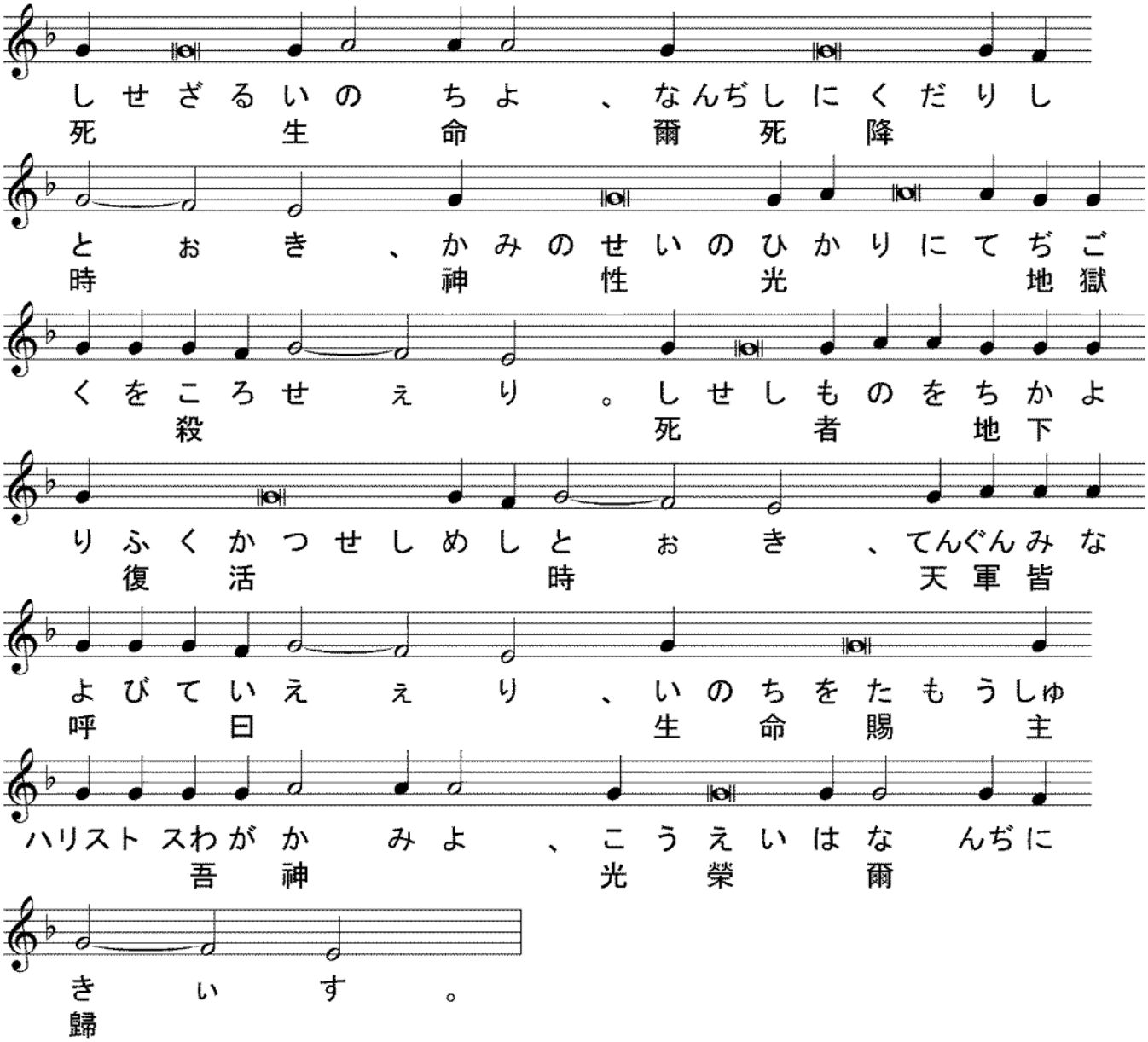
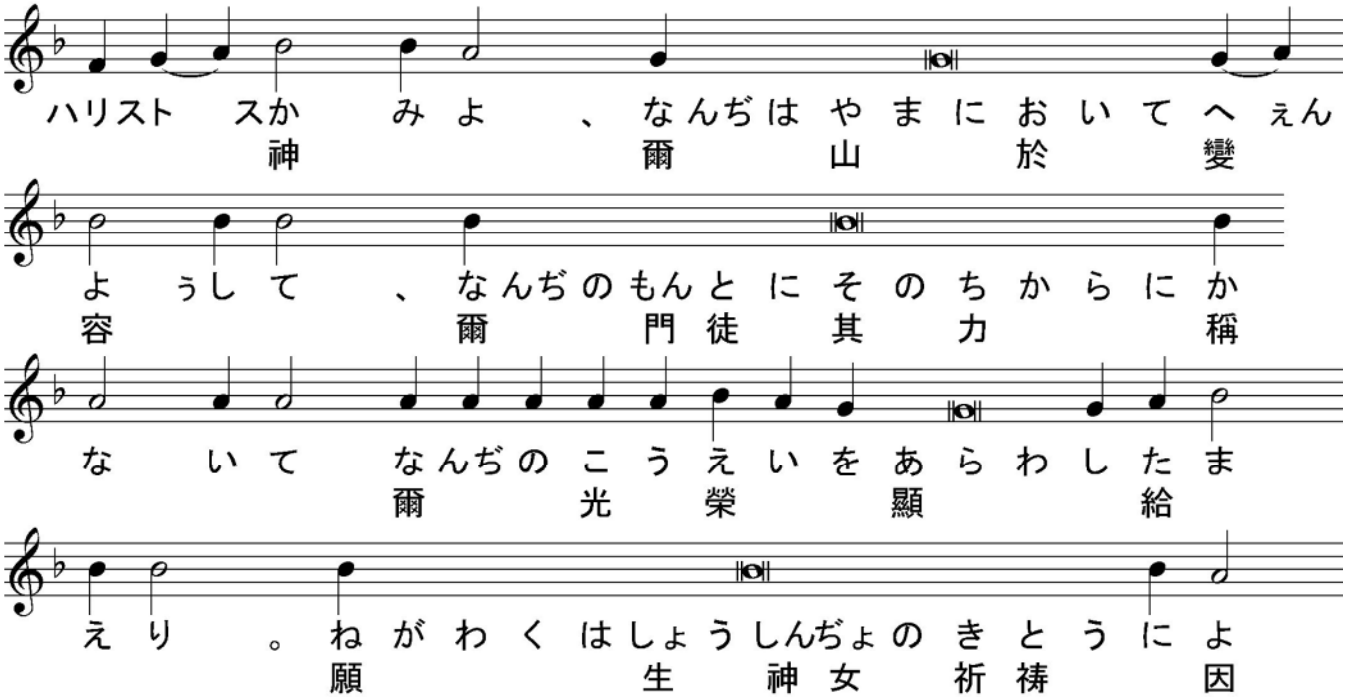
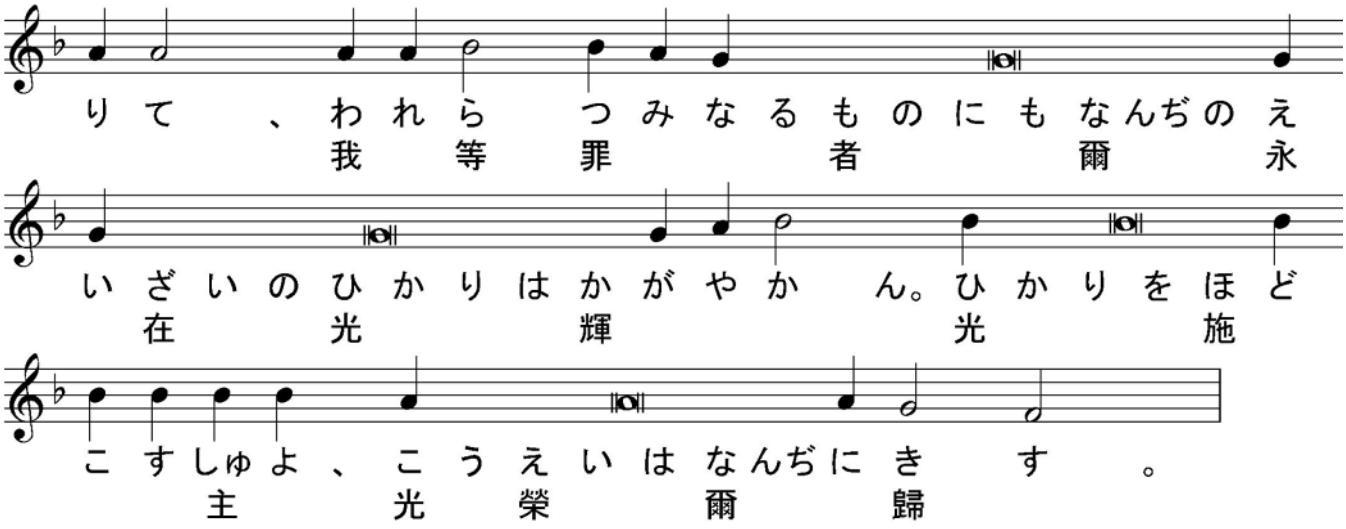
【　復活のトロパリ　第２調　】

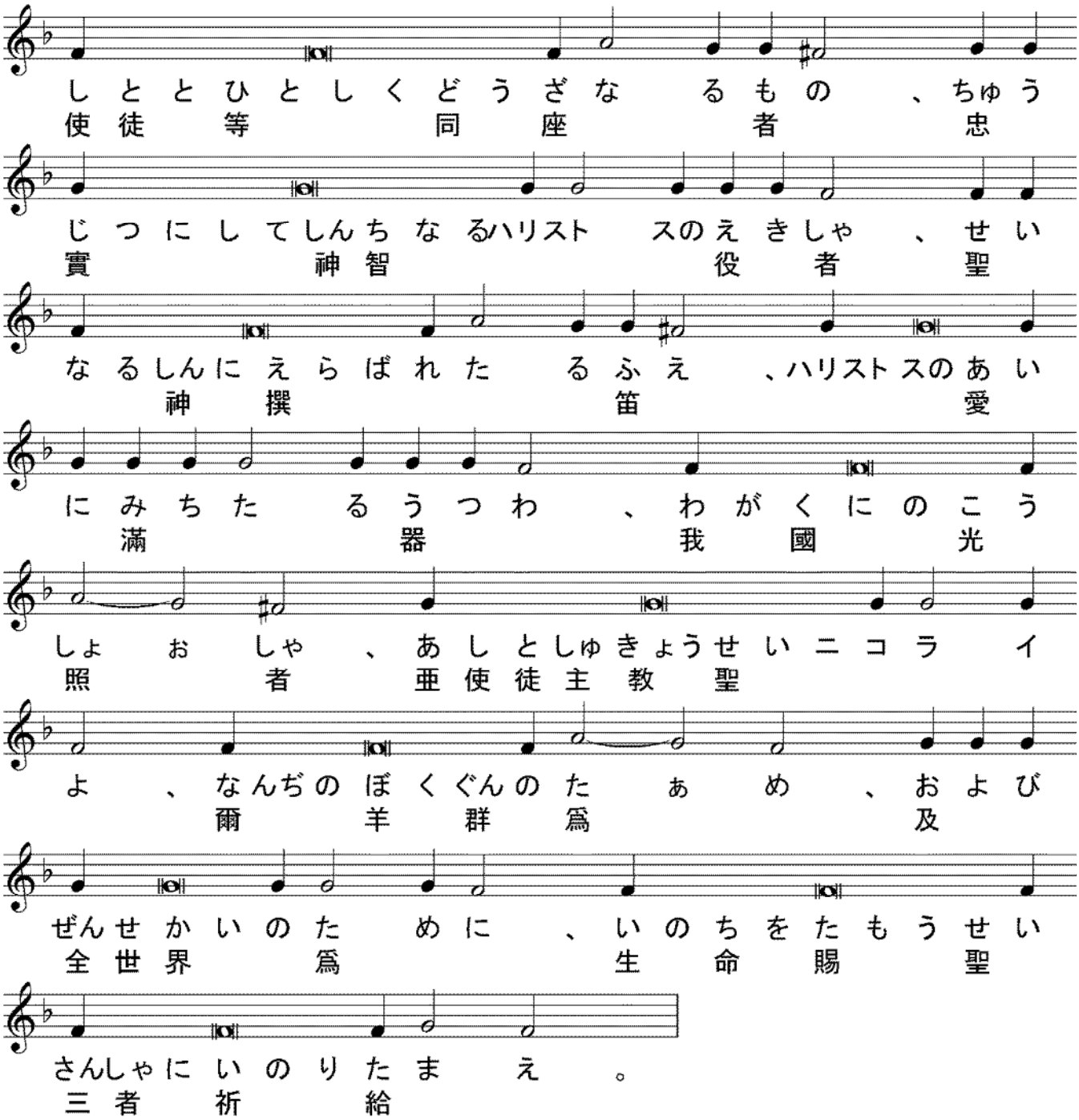



【　顯榮祭のトロパリ　第７調　】

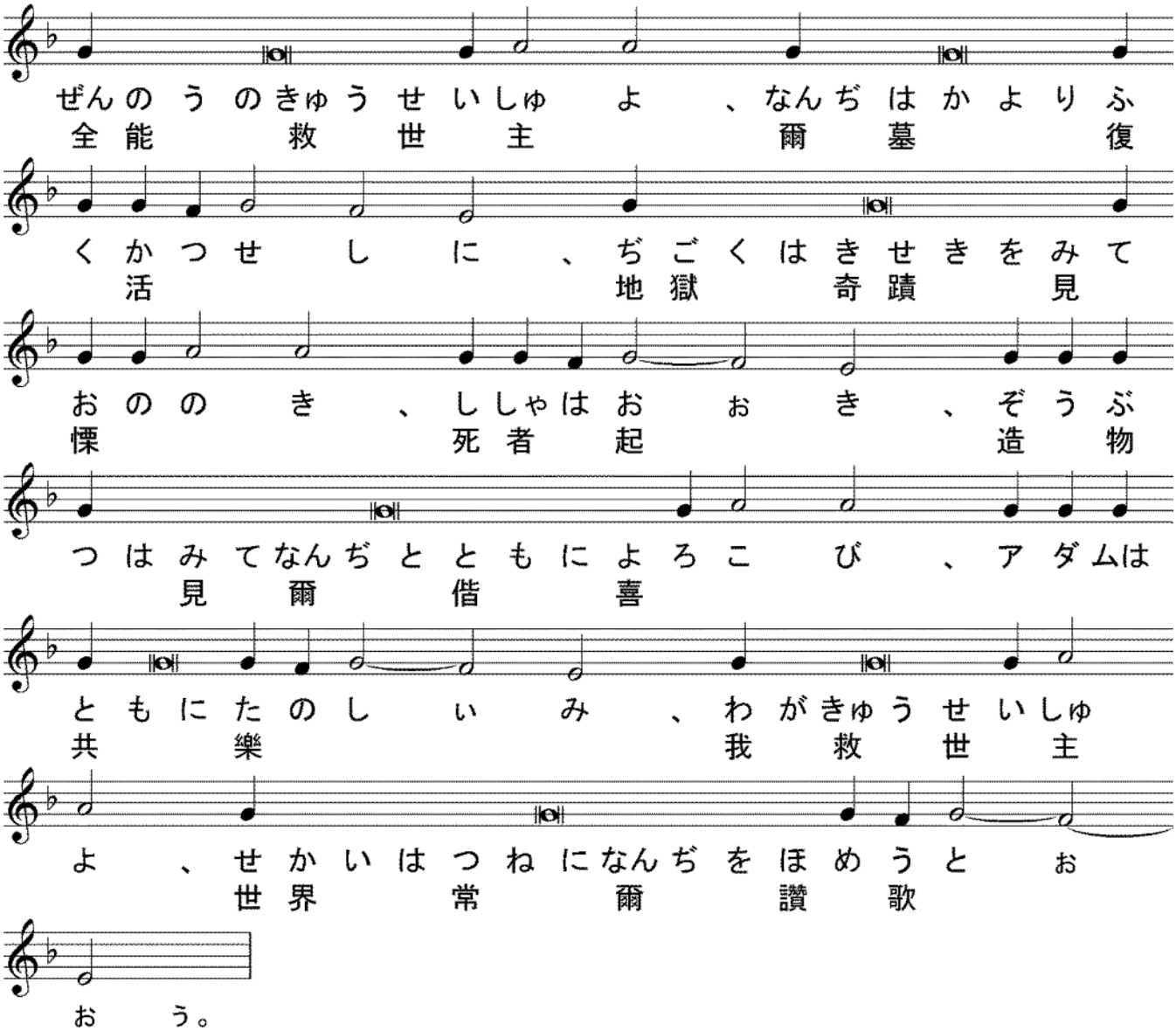




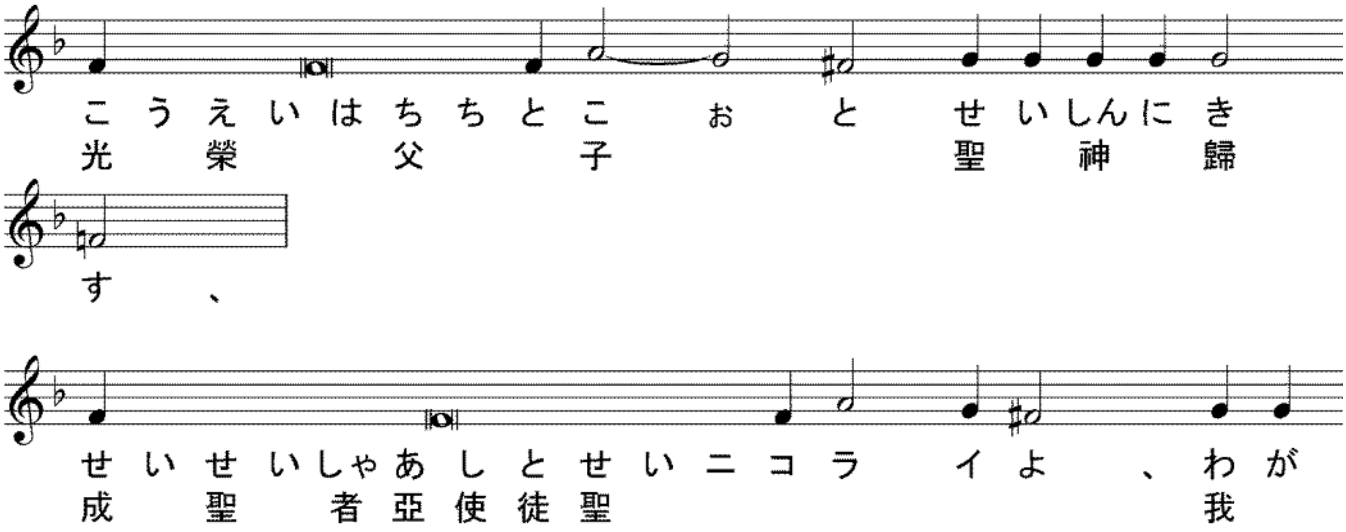

【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



【　復活のコンダク　第２調　】




【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】



くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾初我國於己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖流爾敵

きをぞくしんのことなぁし、かれらにか
屬神子爲彼等神

みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建

たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈

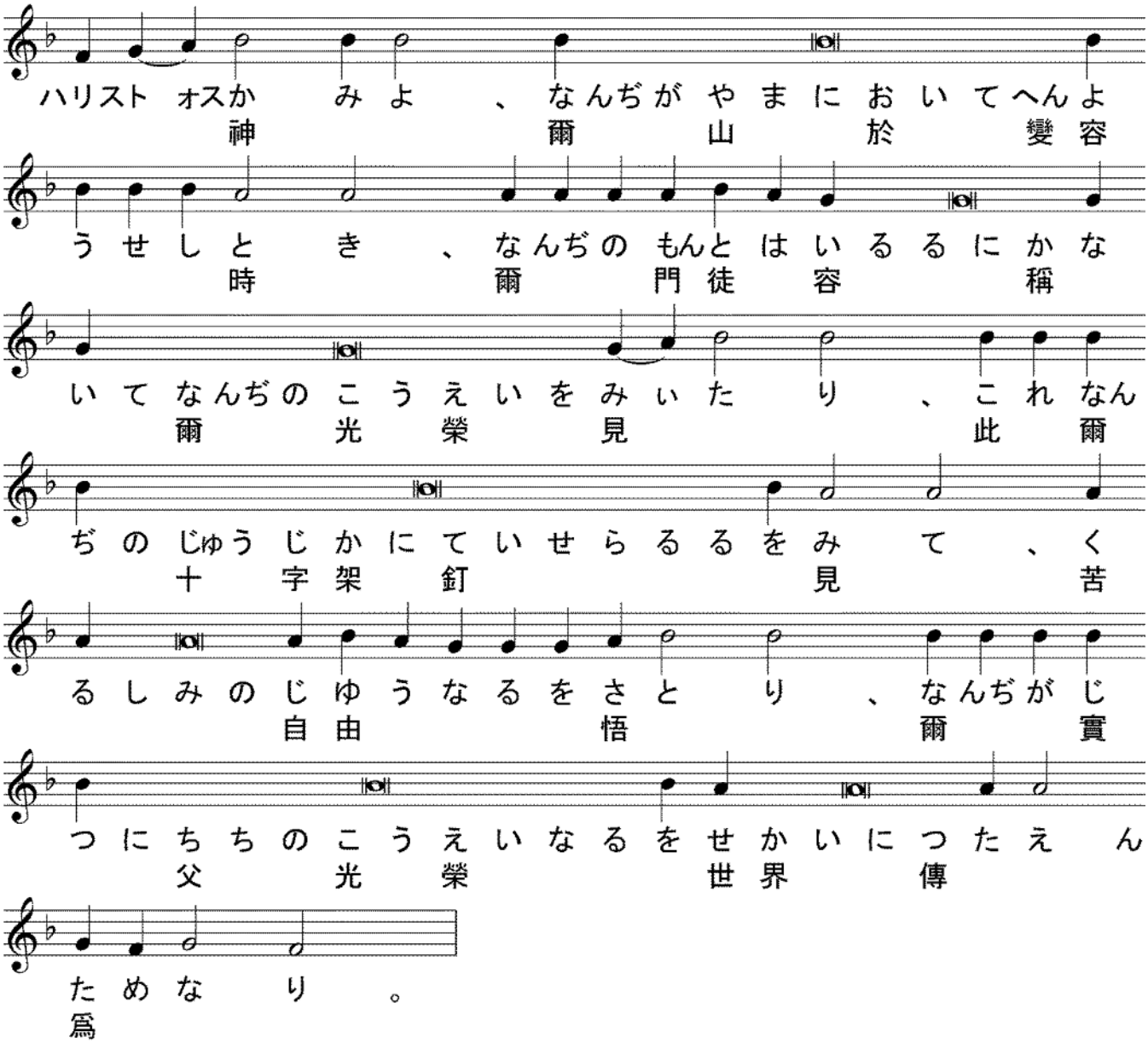
たまぁえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾

ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶

べよ。

【　顯榮祭のコンダク　第７調　】

いまもぉいつぅもよよにぃ、アミン
今何時世世

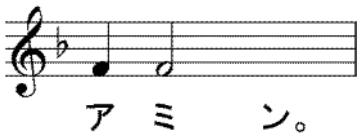



司祭)（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

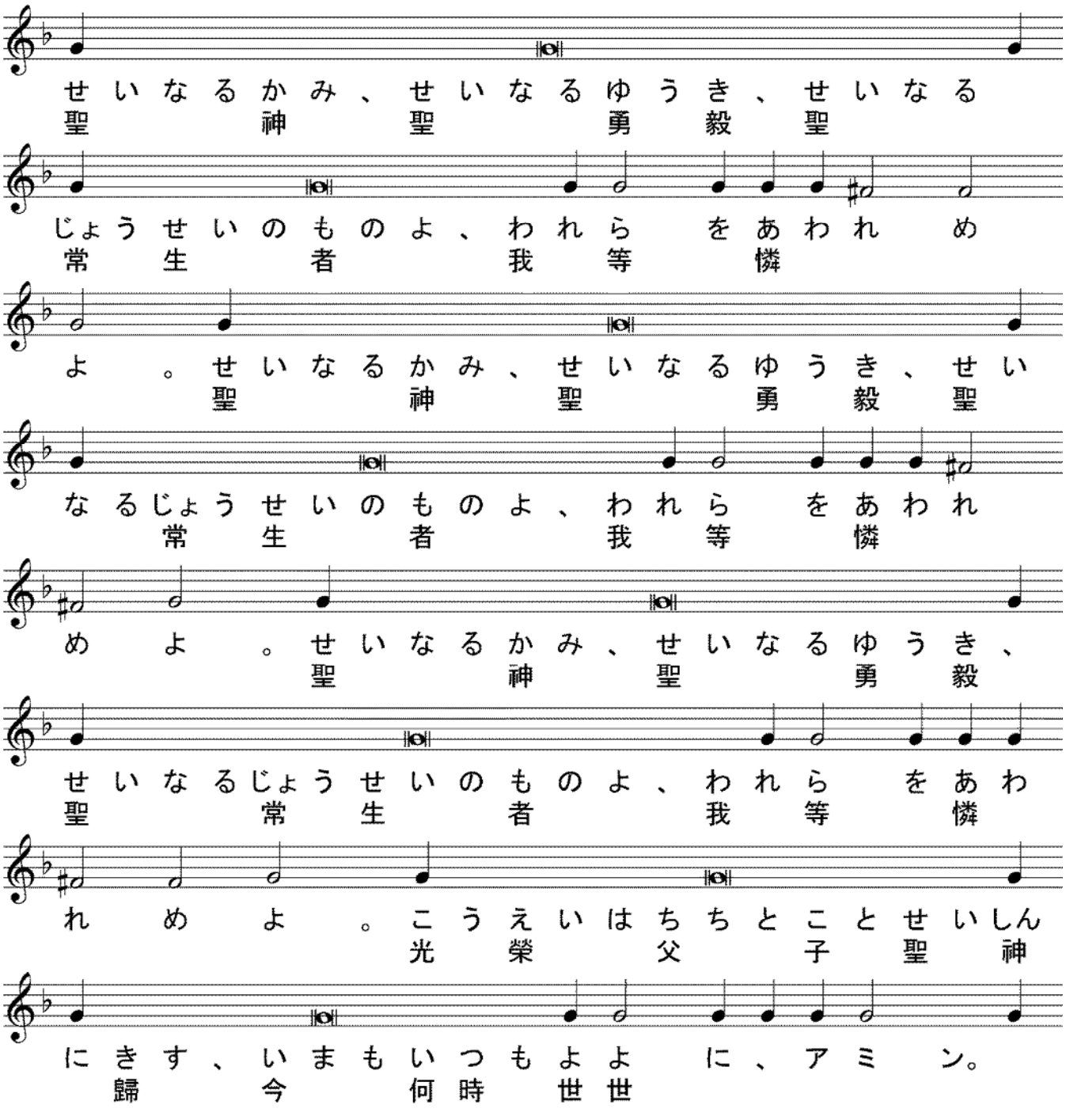
生 神 女 と古世より 爾 の 喜 を爲しし諸 聖 人との祈禱に依りてなり、 )

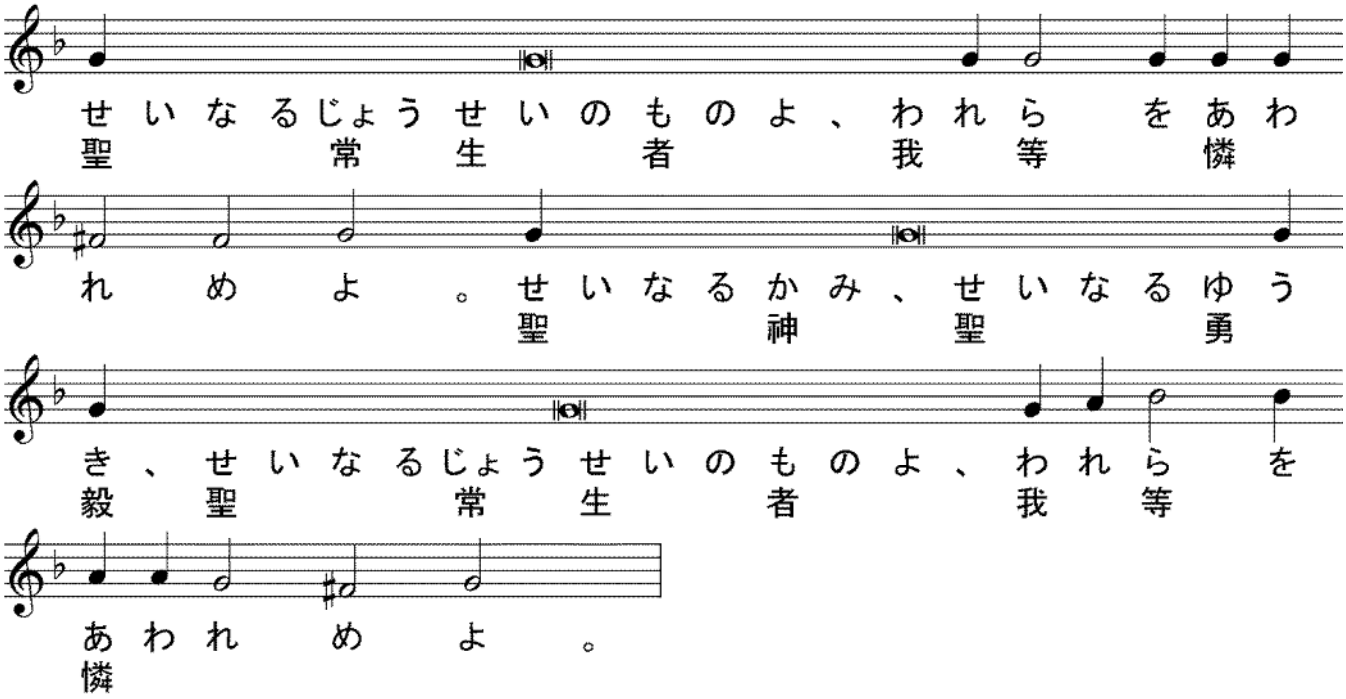
司祭) 蓋 我が神よ、 爾 は聖なり、我等光 榮を 爾 父と子と聖 神に献ず、今も何時も世世

に、




【 聖三祝文 】






司祭）（　黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

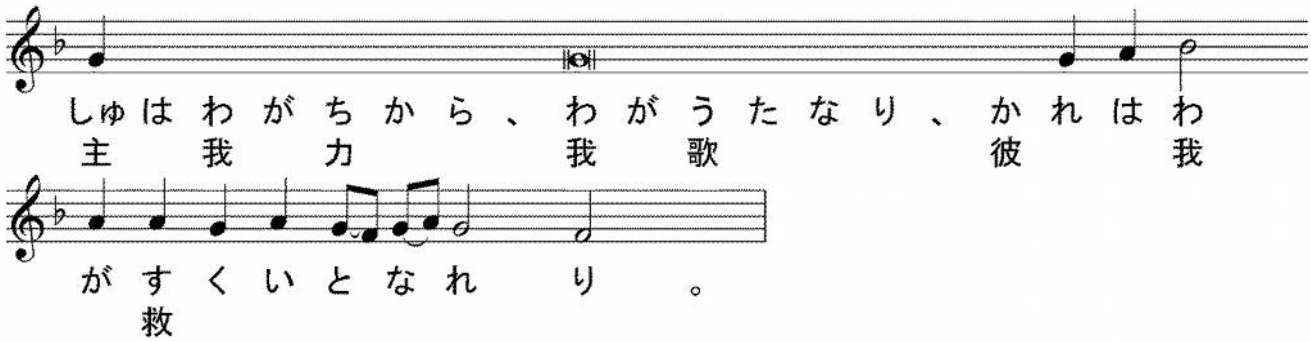
【　提綱　主日第２調　】

司祭）慎みて聽くべし、衆人に平安、

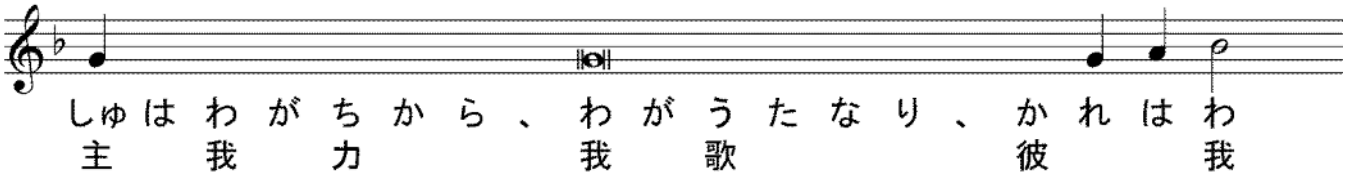
誦經）爾の神にも、

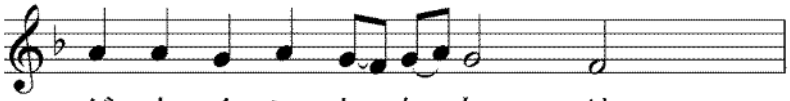
司祭）睿智、

誦經）プロキメン、主は、我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり、

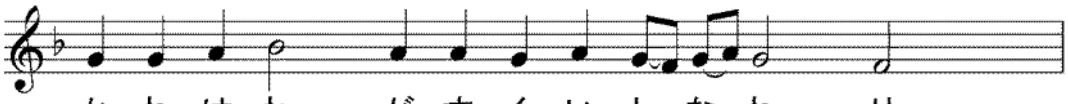



誦經）主は嚴しく我を罰したれども、我を死に付さざりき、






誦經）主は、我が力、我が歌なり、




【 使徒經 141端 コリンフ前書9章2〜12節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがコリンフ人に達する前書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、爾等は主に於て我の使徒職の印なり。我を議する者に我が答うる所是なり。我等豈食い飲むに權なきか。我等豈姉妹なる妻を攜うること、他の使徒及び主の兄弟、及びキファの如く然る權なきか。抑獨我とヴァルナヴァとは工作せざる權なきか。誰か軍士と爲りて、己の給養を以て勤むるをせん。誰か葡萄を樹えて、其果を食わざらん。誰か群を牧して、羣の乳を食わざらん。我唯人の情に循いて之を言うか。律法も亦斯く言うに非ずや。蓋モイセイの律法に録して云く、穀物を踐み落す牛には口を閉づる勿れと。神は牛の爲に慮るか。抑之を言うは、特に我等の爲にするか。是れ我等の爲に録されたり、蓋耕す者は、望ありて耕すべし、穀物を踐み落す者は、其希望する所を獲る望ありて之を爲すべし。若し我爾等の中に神に屬する物を播きたらば爾等の身に屬する物を穫るは、豈大事ならんや。若し他人此の權を爾等の中に獲ば、況や我等をや。然れども我等は此の權を用いざりき、乃凡の事を忍ぶ、ハリストスの福音に聊も阻礎を置かざらん爲なり。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（比較用　口語訳）あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。わたしの批判者たちに対する弁明は、これである。わたしたちには、飲み食いをする権利がないのか。わたしたちには、ほかの使徒たちや主の兄弟たちやケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのか。それとも、

わたしとバルナバとだけには、労働をせずにいる権利がないのか。いったい、自分で費用を出して軍隊に加わる者があろうか。ぶどう畑を作っていて、その実を食べない者があろうか。また、羊を飼っていて、その乳を飲まない者があろうか。わたしは、人間の考えでこう言うのではない。律法もまた、そのように言っているではないか。すなわち、モーセの律法に、「穀物をこなしている牛に、くつこをかけてはならない」と書いてある。神は、牛のことを心にかけておられるのだろうか。それとも、もっぱら、わたしたちのために言っておられるのか。もちろん、それはわたしたちのためにしるされたのである。すなわち、耕す者は望みをもって耕し、穀物をこなす者は、その分け前をもらう望みをもってこなすのである。もしわたしたちが、あなたがたのために霊のものをまいたのなら、肉のものをあなたがたから刈りとるのは、行き過ぎだろうか。もしほかの人々が、あなたがたに対するこの権利にあずかっているとすれば、わたしたちはなおさらのことではないか。しかしわたしたちは、この権利を利用せず、かえってキリストの福音の妨げにならないようにと、すべてのことを忍んでいる。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

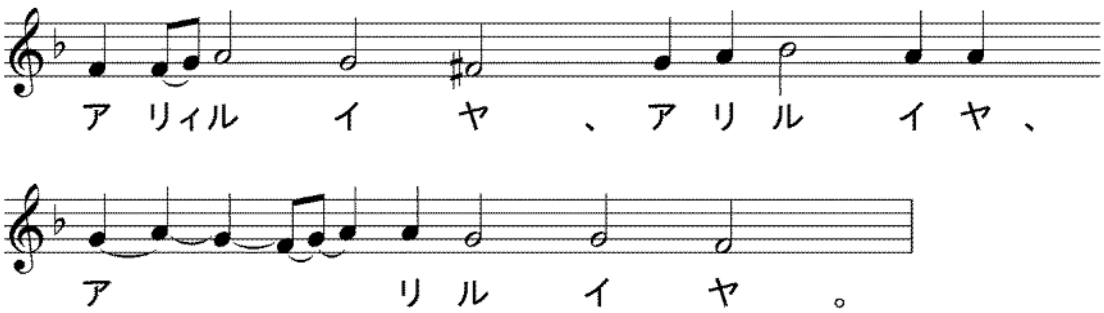
【　アリルイヤ　主日第２調　】

司祭）爾(なんぢ)に平安(へいあん)、

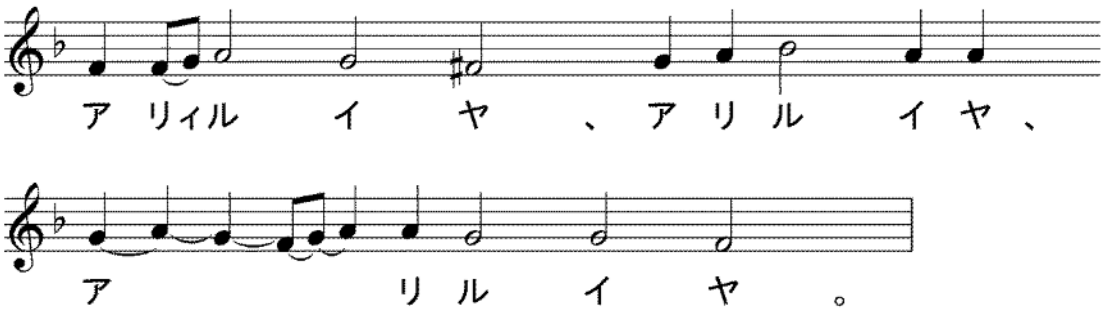
誦經）爾(なんぢ)の神(しん)にも、

司祭）睿智(えいち)、

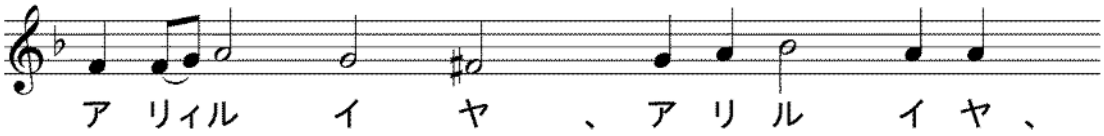
誦經）アリルイヤ、

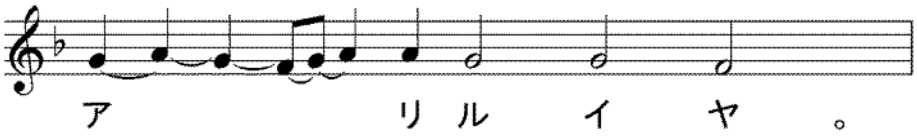



誦經）願(ねが)わくは主(しゅ)は憂(うれい)の日(ひ)に於(おい)て爾(なんぢ)に聽(き)き、イァコフの神(かみ)の名(な)は爾(なんぢ)を扞(ふせ)ぎ衛(まも)らん、




誦經）主(しゅ)よ、王(おう)を救(すく)え、又(またわれら)我等(われら)が爾(なんぢ)に呼(よ)ばん時(とき)、我等(われら)に聽(き)き給(たま)え、

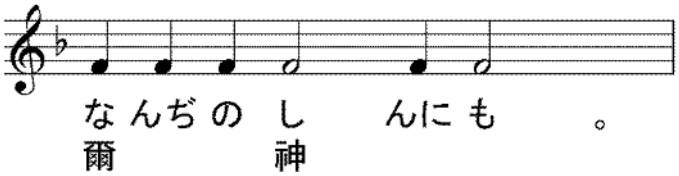


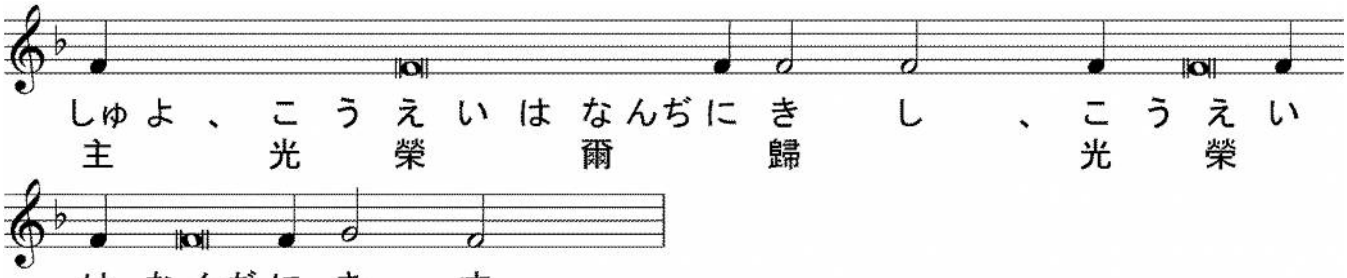

司祭)（ 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

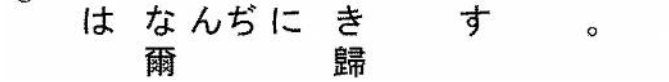
【 福音經（エヴァンゲリオン） マトフェイ福音書77端 18章23〜35節 】

司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、




司祭）マトフェイ傳の聖福音經の讀、

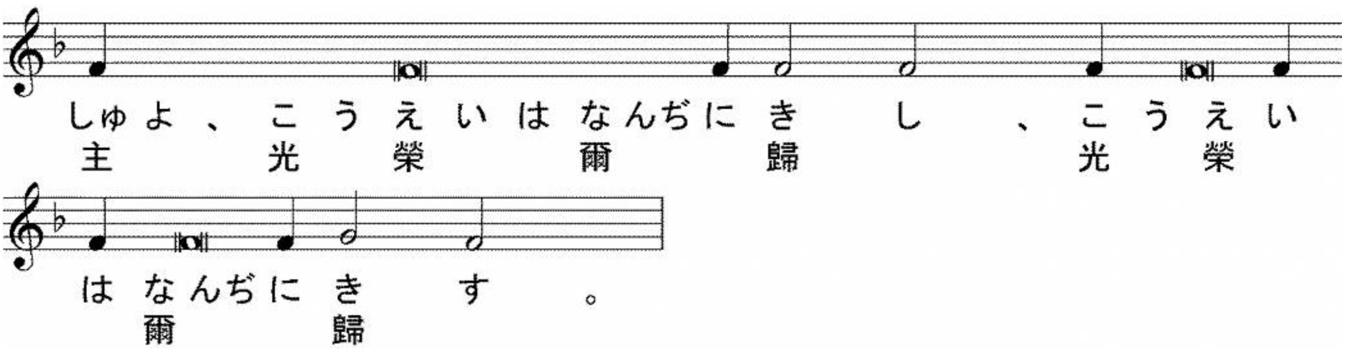



司祭）謹みて聽くべし、主は左の譬を設けて曰えり、天國は、其諸僕と會計せんと欲せし君王に似たり。會計を始めし時、一千萬金の債ある者を彼に曳き來れるあり。其償うこと能わざるに因りて、主は彼の身と、其妻子と、其悉くの所有とを鬻ぎて、償わんことを命ぜり。其僕俯伏して、彼を拜して曰えり、主よ、我を寛うせよ、我盡

く爾に償わん。其僕の主は憐みて、彼を釋ち、彼に債を免せり。其僕出でて、一人の同僚の、己に銀一百の債ある者に遇いて、之を執え、喉を扼めて曰えり、爾が負う所を我に償え。其同僚彼の足下に俯伏して、求めて曰えり、我を寛うせよ、我尽く爾に償わん。然れども、彼肯わず、乃往きて、其債を償うに至るまで、之を獄に下せり。佗の同僚之を見て、甚憂い、來りて有りし所を悉く主に告げたり。其時主は彼を召して曰く、惡しき僕よ、爾我に求めしに因りて、我其債を悉く爾に免せり、我が爾を憐みし如く、爾も亦爾の同僚を憐むべきに非ずや。主乃怒りて、其悉くの債を償うに至るまで、彼を獄吏に付せり。若し爾等各其心より己の兄弟に其罪を免さずば、我が天の父も亦斯くの如く爾等に行わん。

***********************************************

（比較用　口語訳）天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところに連れられてきた。しかし、返せなかったので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売って返すように命じた。そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをのこらず主人に話した。そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう」。

***********************************************